

全回転リーチ

全回転リーチとは言っても、同機の場合はそれ自体がリーチアクションの全

今回の言葉物語は、パチンコファンなら誰しも夢見るプレミアムリーチ「全回転リーチ」という言葉を掘り下げてみたいと思います。

現代パチンコにおいてのリーチアクションの中でプレミアム中のプレミアムと言えばこの全回転リーチです。そのリーチに発展した瞬間に大当たりは確定、さらには確率変動などの付加要素も付いてくるなど、その機種における最高峰のリーチとして設定しているのがほとんどでしょう。

ところが、このリーチ、登場したころは単なるリーチアクションでした。元祖は1990年(平成2)に西陣から登場した「アラシキング」というノーマル機です。



全回転リーチ中のアラシキング。図柄が揃っているのは2か所。
©NISHIJIN

度が高いリーチではありましたが、大当たり確定というものはありませんでした。他にもFネプチューン(現金機)の場合、全回転リーチである「深海竜巻リーチ」は信頼度

で、上下段のいずれかに3つ図柄が揃っている部分が止まれば大当たりというものです。これで気付いた方もいらっしゃると思いますが、これがその後1993年に登場する「春夏秋冬」の全回転リーチに繋がっていくのです。

当初「必ず」ではなかった

全回転リーチはその後多くの機種に搭載されていきます。ドラム型パチンコの元祖でも1994年「フィーバーネプチューン」を皮切りに殆どの機種で搭載されます。このように多くの機種で搭載されていく全回転リーチですが、実はこの当時では全回転リーチは信頼度100%のプレミアムリーチではなかったのです。

前述のアラシキングでは単なるリーチに過ぎませんし、春夏秋冬でも信頼

度が高いリーチではありましたが、大当たり確定というものはありませんでした。他にもFネプチューン(現金機)の場合、全回転リーチである「深海竜巻リーチ」は信頼度



牙狼FINAL全回転リーチの瞬間。ユーザーは歓喜の瞬間を心待ちにしている。
©SANSEI R&D
©2005雨宮慶太/Project GARO
©2006雨宮慶太/東北新社・バンダイビジュアル ©2011[財]雨宮慶太/東北新社 ©2010-2012雨宮慶太/東北新社

約95%、名機ナナシー(現金機)でも信頼度97%と、僅かにハズれる可能性があります。

それでも、その他のリーチアクションや役物などの演出が少なかった当時では、まだユーザーの許容性があったのでしようが、段々と演出そのものが派手になってきた中で、高信頼度である全回転リーチを外したという虚脱感は大きく、100%リーチではないこととのデメリットの方が大きくなってきました。

筆者もFネプチューンで2度深海竜巻リーチをハズしたことがあります。鳩が豆鉄砲をくったような状態になり、何が起きたのか分からず数十秒固まってしまったほどです。そのようなこともあってかは定かではありませんが、全回転リーチを搭載している機種では、そのほとんどが大当たり確定となるプレミアムリーチとしてこのリーチを据え付けるようになったのです。

今登場している機種では最長4分17秒程度のリーチ時間を持つほどの機種も登場した全回転リーチ。その機種の一番の見どころを余すところなく伝えきるためか、最長ではこれほどの長さをもつ機種もあります。しかし、開発者たちも一番の気合を入れて作りこむはずのこのリーチも堪能できないまま撤去の憂き目にあうものも少なくありません。三即営業(即導入、即利益確保、即売却)が続く現状の状態では、ユーザーがその至上の演出を見ることがすら叶わず諦めることも多いのが事実です。**達成欲を満たすためには**

一方、CR海物語in沖縄3シリーズではRTC(リアルタイムクロック)を使った全遊技台の一斉演出後5分間はプレミアムが発生しやすく、ユーザーが多く演出を見やすいように配慮されています。時期や時間による演出の変化や発生頻度の変化は、ユーザーの来店動機にも影響することでしょう。遊技機の性能に関わらない部分での訴求を認めることなど、今後大衆娯楽の観点から行えるようになることも必要です。今、ユーザーは遊技機のことを余りにも知らなすぎるのですから。

(大和田敏男)

待ってました歓喜の瞬間